

からうら

No. **82**

2018.12.30発行



ちよぞつ娘

さがもと坂道マラソン



星谷橋架け替え基金制定 — ②

PTAの声 キャッチボール — ③

町の体制強化を — ⑥▶⑮

新鮮力! 協力隊が走る — ⑮

スタート ダッシュ

星谷橋架け替えに向け

基金設置条例を制定

みかん
会議
(11月)

星谷橋架け替え事業基金設置
条例、一般会計補正予算等が提
案され、議決された。

一般会計補正予算1255万
円で、主なものは林道立川相生
線舗装工事費670万円、横瀬
小学校特別支援学級新設事業1
18万円。

議案に対する質疑

問 大西議員

星谷橋架け替え事業の概要と、
基金の積み立て計画は。

答 松本建設課長

生名バイパスの信号機がある
交差点から県道新浜勝浦線と星
谷中央線の交差点を結ぶルート
になる。

基金は、今年度から事業開始
予定の2023年まで、毎年6
000万円づつ積み立てる。

新しく教育委員に
任命同意



松本重幸氏
(山西)

決算に異議あり

9月会議で提案された29年度
決算(一般会計)33億5000
万円で、消防ポンプ車購入費の
未執行などがあり、継続審議と
していたが、11月会議で執行部
から改善策の提示があり、審議
の結果認定した。

主な使い道

- ・ 勝浦病院改築基金 1億円
- ・ 救急救命士委託事業 5500万円



訓練に励む救急救命士

・ 宅地造成事業

1100万



子供が増えた前川団地

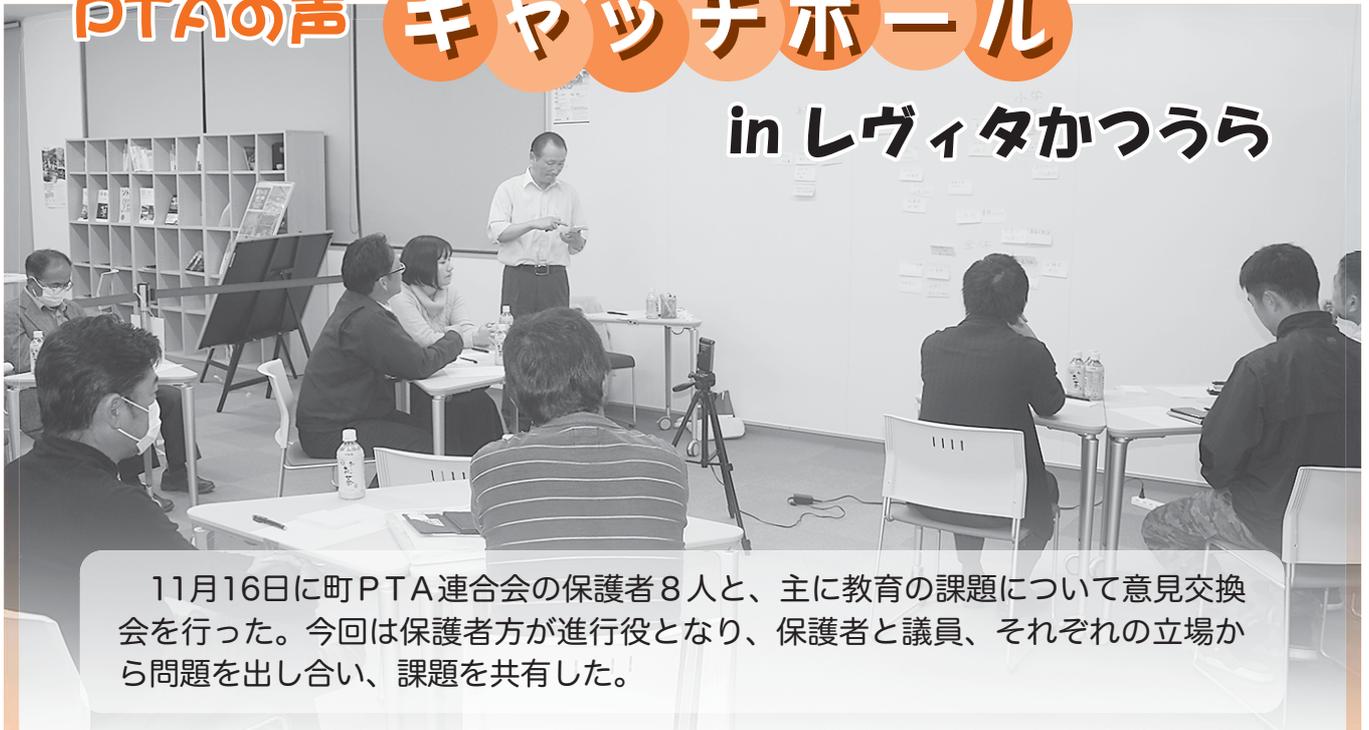
年頭のあいさつ

議長 節 公一

謹賀新年

日々新たな
災害への備え
地方力のアップ





11月16日に町PTA連合会の保護者8人と、主に教育の課題について意見交換会を行った。今回は保護者方が進行役となり、保護者と議員、それぞれの立場から問題を出し合い、課題を共有した。

保護者 ▶ 2020年度から英語が教科化されるが、対策はできているのか

議員 ▶ 昨年度よりALT（英語指導助手）を2人体制にしている。教科化に向けて英語教育の支援員配置などを要望している。

保護者 ▶ 外国人のホームステイ受け入れなど、交流を図る中で「生きた外国語」に触れられる機会を作ってほしい。

保護者 ▶ 通学路で、生比奈小学校区では中角から西岡商店街辺り、横瀬小学校区では中央商店街や棚野の寒山商店前カーブから徳島銀行にかけてが危険である。早急に歩道の整備等により安全対策を望む。

議員 ▶ 生比奈小学校から東側約400m区間で歩道整備が進んでいる。棚野地区は以前より県に要望しているが、実現していない。今後も通学路の安全確保に向け取り組む。

保護者 ▶ 教員や学校に関係する問題について、学校に相談しにくい場合がある。教育委員会等に相談窓口を設置できないか。

保護者 ▶ 学生服の購入費は保護者には大きな負担だ。卒業生などの要らなくなった制服をリユース、譲渡できる仕組みを作れないか。

その他に「夏休み期間の変更を含めた暑さ対策」や「小学校グラウンドの遊具充実」、「路線バスの本数維持」や「学区制の撤廃」を望む声など、多くの意見が出た。今後、課題を整理し、議会として執行部に対して提言していきたい。



進行役の杉本卓司さん



相次ぐ台風と豪雨災害

9500万円を補正

- ・公共土木施設災害復旧費 8200万円
- ・サルビア作業所屋根補修等 (河川5件、道路7件) 150万円
- ・町単独農業振興事業補助金 300万円
- ・畜産団地施設の屋根補修 400万円
- ・生比奈小学校体育館、校舎の屋根補修等 100万円
- ・中学校体育館屋根補修 110万円
- ・消防団第9分団小型動力ポンプ車購入契約 790万円

教育長の
任命に同意



市川公雄氏 (与川内)

問 大西議員

台風被害で農業振興費の予算が増えていて、300万円の補正で心配ないのか。

答 海川課長

台風被害による農業施設での修繕などで、農地や貯蔵庫等が見込まれる。この事業費で執行していきたい。

問 国清議員

古い消防車を3年間での購入計画であったが、29年に購入できていない。今後どうなるのか。



買い替えだったが… (第9分団)

答 山田課長

今年度1台購入し、来年度に複数台購入も考えている。



台風被害の畜産団地

問 松下議員

畜産団地は台風で被害を受けたが、老朽化が進んでいるのではないか。

答 海川課長

耐用年数は35年でまだ残っており、主たる構造物に問題はない。

主なものは

- ・危険ブロックなど撤去支援事業 200万円
- ・災害復旧費 3600万円
- ・沼江バイパス残土処理場用地等購入費 2500万円
- ・粗大ごみ処理費 300万円
- ・勝浦病院土地造成工事実施設計 1700万円

問 美馬議員

ブロック塀撤去の補助は、どういった箇所が対象となるのか。

答 松本課長

道路に面した危険性の高いブロック塀で、所有者が申請し点検した結果、安全対策が必要と判断されたものだ。

12月会議

危険ブロック塀
撤去に9200万円
を補正



道路に面したブロック塀

どう活かす!! 先進地視察

地域に愛される 病院をめざし

唐津市民病院きたはた



病院改築に向け活発に意見交換

「勝浦病院」の改築に向けては課題も多い。優良病院の表彰

を受けた佐賀県「唐津市民病院きたはた」を視察した。

「住民の安心・安全な暮らしを守り、包括ケアサービスを提供し、愛され心の支えとなる」を経営理念としている。

特長としては、保健センター、在宅介護支援センターなどを併設し、ベット稼働率が80%を超えている。

人口減少のなかでの改築となるので、地域で生き残れる病院として、近隣病院との役割分担を図り、受け入れ体制の充実強化と職員の意識改革が必要である。

小さな島の

大きな挑戦

長崎県・小値賀町

長崎県の離島で人口わずか2500人足らず。合併を断念し自立の道を選んだ小値賀町。

議会改革推進方針として、

- ・能動的に行動する議会
 - ・町民と共に歩む議会
 - ・政策提言議会
- をめざしている。

議会版総合計画の策定に町民の参画を求め、具体的に実現可能な計画とした。

今後、小値賀町の活発な議会改革を参考に議会活動に活かしたい。

田舎暮らし

プロジェクト

長崎県・東彼杵町

人口8000人の東彼杵町。町長が「まちづくりをしなければ町が消滅する」と危機感を持ち、「田舎暮らしプロジェクト」を契機に、専属職員を配置し「空き家バンク事業」に本格的に取り組んでいる。実績として23年から29年まで

に①登録56件②改修45件③提供53件④移住51件となっている。

「空き家登録奨励金制度」を設け、所有者に対し申し込み時に2万円、契約成立に3万円を支給している。

本町の移住定住策がなかなか進んでいないことから、今後、専門員によるきめ細かい対応が必要である。



一 般 質 問

各議員が町の執行部に対して、様々な角度から町政について質問した！
各議員の動画中継はそれぞれ掲載ページの
QRコードから見られます。

質問事項	質問議員	ページ
行政・まちづくり		
町職員の人員配置は適切か	美馬友子	7
役場の体制と住民サービスは	松下 一 一	10
地方創生総合戦略、成果と課題は	大西 一 司	15
役場組織、体制の強化を	大西 一 司	15
防災・減災		
危険な老朽空き家対策、いつ取り掛かるのか	仙才 守	9
通学路の安全対策、防犯灯の新設を	麻植 秀 樹	12
道路・建設		
基金積立3億円、星谷橋架け替え工事	国清 一 治	8
町道への倒木対策	仙才 守	9
沼江バイパス、四国横断道への連結を	松下 一 一	10
地籍調査の早期完了を	井出 美智子	13
産業・観光		
恐竜王国かつうら、町に化石展示場を	国清 一 治	8
観光資源、整備・活用を	森本 守	14
企業誘致の現状は	森本 守	14
福祉・医療		
勝浦病院改築、健康増進センター設置を	美馬友子	7
教育		
教育大綱の見直し、町の教育ビジョンは	松田 貴 志	11
県立高校通学区制への対応は	松田 貴 志	11
中学校校舎、雨漏り対策	麻植 秀 樹	12
小学校英語教育、人材の確保を	井出 美智子	13

勝浦病院改築 健康増進センター設置を



企画総務課長

病院単独で改築

問 地元の病院として生き残るためには、地域包括支援や社協健診や健康相談や指導など集約してワンストップサービスができるように「健康増進センター」を院内に設置し、医療、福祉、介護の一体化をすべきでは。

答 山田企画総務課長

高齢化社会でサービスの提供体制は重要であるが、単独の改築と決定し基本設計を行っている。

問 町民はパブリックコメントでも健診や相談窓口を院内になど要望が強い。現時点で健康増進センターを併設すると、将来的に建設する場合には予算はどうなるのか。

答 山田課長

大まかではあるが併設では2億円程度、別に建設をすれば3・5億円程度かかる。



健康増進センターを併設している唐津市民病院

問 地域医療の要として、この建築のチャンスに2億円の投資をして住民の健康の向上という大きな利益ができる。高い予算ではないのでは。

答 山田課長

老朽化した病院を早急に改善する必要があるので併設はしない。健康増進センターは時間をかけて検討する必要がある。

問 改築に向けて看護体制を13…1に上げ、診療単価の増加

や接遇教育など看護の質を向上し住民サービスにつなげては。

答 笠木病院事務局長

現在の看護職員数で対応可能なので、上位基準をめざしたい。また、地域連携室を強化し、看護の質向上も含め、接遇研修など病院全体で取り組んでいく。

町職員の

人員配置は適切か

問 住民ニーズも多様化し、業務も複雑化している。人員を確保し、適切に配置すべきだ。

答 山田課長

職員数の増加を含めた「定員管理計画」の見直しを行い、住民サービスにえられる職員を育てていきたい。

■こんな質問もしました

- ・職員の人材育成の基本方針は
- ・障がい児の放課後デイを

恐竜王国かつうら 町に化石展示場を

町長

県に働きかけていく



一般質問

問 立川地区における恐竜の「ボーン・ベッド」発見は、「国内最古級」として大反響を呼んだが、その後、教育委員会はどう動いたのか。

答 笹山教育委員会事務局長

県とともに地元説明会や、関係地権者への協議を進め、11月に学識経験者や地元団体、県や町職員で組織する「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」を立ち上げた。

問 発掘した全ての化石を県立博物館に持って行くのでは、勝浦町の地方創生、地域活性化につながらない。

「恐竜王国かつうら」実現に向けて、県立博物館の化石展示の分館として誘致できるよう働きかけを。

答 野上町長

化石が展示できる県立博物館の分館誘致に向けて、ねばり強く働きかけていきたい。



「出てこい恐竜」



基金積立3億円

星谷橋架け替え工事

問 今議会に、星谷橋架け替えに向けての「基金条例」が提案された。工事の概要は。

答 松本建設課長

新しい橋は、生名バイパスの信号機のある交差点から、町道星谷中央線と県道新浜勝浦線の交差点までの総延長570メートルで、橋の延長は170メートルである。

取り合い道路は、星谷側が約100メートル。生名側が約300メートルである。

問 工事費と基金の積立予定額は。

答 松本課長

建設費用は試算で18億円。一般財源を3億円見込んでおり、6千万円を6年間積み立てる予定である。

■こんな質問もしました

- ・ 基幹産業の課題と活性化
- ・ インバウンドの町へ
- ・ 県道新浜勝浦線改良工事

危険な老朽空き家対策 いつ取り掛かるのか

建設課長

2020年度から開始



問 老朽空き家対策について、7月会議で条例が必要との答弁だったが、いつ制定するのか。また対策の手順は。

答 松本建設課長

県に確認したところ、特措法に基づく処置であれば条例は不要のことだった。

空き家の数、実態等の調査を行い、その後、対策を検討するための協議会を設置し、対策計画を策定することになる。

問 実際に立ち入り調査をする時期はいつになるのか。

答 松本課長

2019年度に準備し、2020年度に事業を開始したい。

問 すでに多くの自治体では「空き家等対策の推進に関する特別措置法」に基づいて空き家対策を実施している。遅すぎるのではないか。

答 野上町長

前倒しできないか検討する。

先進自治体の状況

鳴門市では協議会で空き家対策計画を策定し、審議会を組織して危険空き家対策を実施している。

町道への倒木対策

問 今年は、台風による町道への倒木被害が多発し、各地で住民ボランティアによる倒木除去作業が行われた。復旧に当たったの基本方針は。

答 松本課長

倒木の撤去については基本的な考え方は。

- ① 住民からの通報、道路パトロールで現地確認する。
- ② 倒木の所有者を確認し、撤去を依頼する。
- ③ 所有者が撤去できない場合は、道路管理



ボランティアによる撤去（坂本地区）

上、町が道路の通行を確保する。（樹木の処分は所有者が行う）

■こんな質問もしました

・耕作放棄地からの出水被害対策

- ・新教育指導要領への対応
- ・海外交流事業の実施を
- ・光ケーブルの料金改定

沼江バイパス 四国横断道への連結を



町長

県に要望していく

問 沼江バイパス3期工事が着工されるが、今回発注の区間と工期はどうなっているのか。

答 松本建設課長

2期工事の終点から西側へ150m区間で、工期は12月から来年の6月末である。

問 沼江バイパスと四国横断道榑淵の地域活性化インターチェンジとの連結について、小松島市と協議はできているのか。

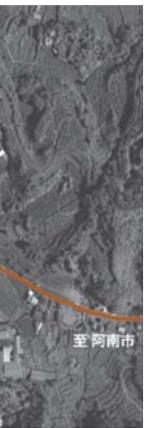
答 野上町長

地域インターとの連結は大きな経済効果をもたらすので、小松島市と協議し県に要望していく。

問 残土で埋めたてる土地の利用計画が進まないが、公衆トイレの設置はできないか。

答 松本課長
また、町営水道管の埋設工事を、バイパス工事と同時進行することに県は承知しているのか。

トイレの設置は、跡地の利用計画と合わせて検討する必要がある。また、水道管理設工事は県に伝えている。



「やっと着工」沼江バイパス3期工事

役場の体制と 住民サービスは

問 行政に対し失望や批判、職員の資質を問う声がある。内部通報や個人的相談ができる体制はあるのか。

答 山田企画総務課長

役場の「公益通報制度」で、相談窓口を企画総務課に設けている。

また、職員管理に関する相談等も受けている。

問 飲酒運転防止のため、出勤時に自主的なアルコールチェックができないか。

答 野上町長

法に触れることは許されない。チェックできるような体制を築きたい。

危険な通学路の改良を

問 通学路として非常に危険な県道の柳原地区や、西岡地区の狭あい部の改良を。

答 松本課長

中角地区の歩道整備工事完了後、県に要望していく。

- 果樹試験場跡地の利用計画
- ・ 役場施設の安全確保

教育大綱の見直し 町の教育ビジョンは

一般質問



教育長

一言で言えば「人づくり」

問 来年度に向けて「勝浦町教育大綱」の見直しが図られるが、教育長としてどのような思いを取り入れて行くのか。

答 市川教育長

一言で言えば「人づくり」であると考えている。そのため基本は学校教育であり、児童・生徒が「1日が本当に楽しかったな」と思える学校。保護者が子供を安心して通わせられる学校。教職員が勝浦で勤めて良かった、住んで良かった、また勤めたいと思ってもらえる学校にしたい。

また、地域、住民から応援してもらえる学校。同時に地域を勇気づける学校でもありたい。そういう学校をつくる、そのための「人づくり」を教育委員会として考えていく。

問 横瀬小学校の児童数が80人を割り込み、4年後には複式学級の可能性も出てきている。今後の小学校のあり方についての考えは。

答 市川教育長

横瀬小学校の「よく学び、よく遊び」。生比奈小学校の「一人はみんなのために、みんなは一人のために」との校訓をもつて、伝統を生かしながら、それぞれで特色を生かした教育、運営を続けたい。
現在は統合を考えていない。

県立高校通学区制

への対応は

問 町長は「現状の通学区制度は問題があり、解消に向けて取り組んでいく」とのことであった。教育長としてどのような姿勢で臨むのか。

答 市川教育長

生徒が行きたい学校、受けてみたい学校を地域にとらわれず公平にチャレンジできる体制が望ましい。機会を捉え主張していききたい。

■こんな質問もしました

- ・人口減少に歯止めを
- ・子育て環境日本一の町



「よく学び、よく遊び」横瀬小学校

通学路の安全対策 防犯灯の新設を

企画総務課長

2019年度に予算化



一般質問



防犯灯が必要な通学路（中角地区）

問 町内の通学路は、危険な場所が多くある。教育委員会として、危険箇所を把握しているか。

答 笹山教育委員会事務局長

保護者や学校側から指摘があれば、危険箇所の確認を行い、改善が必要であれば、建設課や住民課と対策を協議している。

問 冬場の下校時は暗く危険が高まる。以前より防犯灯の新設

を要望しているが、一向に聞き入れられない。安全確保のため、早急に防犯灯の設置が必要だ。

答 山田企画総務課長

長年にわたり新設は認めていなかったが、町長の方針もあり2019年度に予算化し、優先順位をつけて設置したい。

中学校校舎

雨漏り対策

問 勝浦中学校はグッドデザイン賞を受賞した校舎であるが、改築当初から雨漏りが発生していた。責任の所在をどう考えているか。

答 笹山局長

設計会社と施工会社のどちらに責任があるか判っていない。雨漏りが発生するたびに、当時の施工業者が無償で補修している。

問 補修しても雨漏りが繰り返して発生している。原因を突き止める、確実な雨漏り対策をすべきだ。

答 笹山局長

建築の専門家等と相談しながら、改善できるよう対応したい。

みかん苗木

補助金の見直しを

問 みかん苗木の購入補助金は、領収書金額の2分の1にならないか。

答 海川産業交流課長

苗木の平均単価を見直し、購入単価の2分の1を補助できるように見直しをする。

■こんな質問もしました

・空き家バンク登録制度を

小学校英語教育 人材の確保を

一般質問



町長

支援員の配置を検討したい

問 勝浦町の英語教育の現状は。市川教育長

ALT（外国語指導助手）を1人から2人に増やし、強化している。

問 2020年度の学習指導要領改訂で、英語教育がどのように変わるのか。

答 市川教育長

5・6年生の英語が教科となり、通信簿で成績を評価するようになる。

問 豊かな外国語教育を追求するには、人材の確保が急務であり、教科化されると指導内容が高度となり、指導時間も増える。児童や教師の負担も大きくなるので、英語教育支援員の配置が必要ではないか。

答 野上町長

状況を見ながら、支援員の配置も検討したい。

地籍調査の早期完了を

問 地籍調査は、相続や災害復旧のためにも、全町での早期完了が求められている。現在の進捗状況と完了予定は。

答 松本建設課長

すでに棚野、中山地区（全町の18%）が終了し、現在、坂本生名地区で調査中である。

1年に約2平方キロずつ済ませており、28年後には全町完了予定である。

問 早く取り掛からないと、山や土地に詳しい人がいなくなってしまう。次の地区は決まっているのか。

また、抜本的にペースを速める方策が求められ、国や県に「予算を増やせ」という働きかけが必要ではないか。

答 松本課長

2021年度に新規地区を決定し、2023年度に開始したい。



急がれる地籍調査

答 野上町長

今後も、国や県に予算の増額を働きかけていく。

■こんな質問もしました

- ・ 学校図書館司書配置を
- ・ 職員体制の強化を

観光資源の 整備・活用を

森本 守 議員



産業交流課長

改善が必要

問 町内の観光スポットは、何か所があるのか。

答 海川産業交流課長

観光スポットを分類すると、見る（8件）、体験（6件）、食べる（10件）、合計24カ所をPRしている。

答 笹山教育委員会事務局長

美術工芸品や建物など文化財は、国指定（5件）、県指定（11件）、町指定（5件）の合計21カ所である。

問 観光資源として適正に整備・活用されているのか。

答 海川課長

道路や駐車場の整備、手すりなど安全対策や案内板の改善が必要である。

問 勝浦町の民話・伝説・昔話の本が出版されているので、活用して観光案内ボランティアを養成してはどうか。

答 海川課長

活性化協会の観光ボランティア勉強会で、出版物を活用し育成したい。

問 イベントの同日開催がよくあるが、情報を一本化できないか。

答 海川課長

イベントが重ならないように、早めに年間を通じた情報提供をしていく。

企業誘致の現状は

問 船井電機跡地に昨年誘致した「辻本製作所」の操業や雇用状況はどうなっているのか。

また、町はどのように支援していくのか。

答 海川課長

本年9月から本稼働し、現在11名の社員で、町内雇用者は2名である。引き続き人員の募集をしている。

答 野上町長

町民が働ける場所として、支援を続ける。

■こんな質問もしました

- ・墓地の新設手続きは
- ・第65回徳島駅伝「勝浦コース」への対策を
- ・町文化祭マンネリ化を防ぐには



新しい職場の「辻本製作所」

地方創生総合戦略 成果と課題は

一般質問



地方創生推進室長

移住、定住に成果

問 総合戦略事業が来年度最終年度となる。内容を検証し、事業の継続、廃止を含め再検討する必要があるが、現状の成果や課題はなにか。

答 石木地方創生推進室長
さまざまな事業に取り組んできたが、重要な人口減少問題で、総合戦略に掲げている目標出生数40人、18歳未満の人口700人達成は厳しい状況だ。移住・定住面では、「移住支援補助金」が活用され、移住者の増加や宅地造成による若者の増加があった。就学前の子どもが含まれることで、人口減少問題に一定の成果があった。

答 山田企画総務課長

効果が上がらなかった事業を見直し、より効果が高いものに移行していく必要がある。



期待される一楽団地（沼江地区）

役場組織

体制の強化を

問 27年から地方創生事業が始まったが、職員数は変わっていない。各課とも任務が増え、事務的なミスや見直しが続いており、町民に不安を与えている。

役場への信頼が薄れているのではないかと。組織体制の見直し、強化を急ぐべきだ。

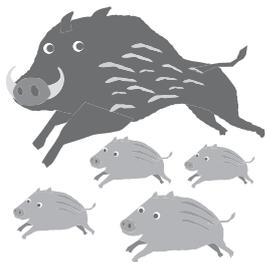
答 野上町長

組織体制については、地方創生推進室、簡易水道対策室があり、それを独立させた課として新設したい。

特別なプロジェクトについては、各課の連携が強まる体制を築いていき、町民の信頼を早く取り戻したい。

■こんな質問もしました

- ・ふるさと納税の増額を
- ・宅地造成事業
- ・果樹研究所跡地利用
- ・恐竜の里の取り組み



新鮮力! 協力隊が走る

シリーズ⑤

「地域おこし協力隊」の活躍を、シリーズで紹介しています。
今回は!

渡邊祐介さん



★まずは自己紹介

39歳O型独身、ぽっちゃり系の癒し系。出身は愛媛県四国中央市で、10年ほど板前をやっていました。

★なんでこの町へ

「地域おこし協力隊」に関心を持ち、「自分以外のために」何かやってみたくて応募しました。



★どんなことしよんで

「勝浦町物産協議会」で、主に町外での販売業務を担当しPRしています。

また、K-Friendsで婚活の企画・運営などもさせてもらっています。

今年度から消防団第5分団に入団しました。

★ゆめは大きく

勝浦町で「誰かの願い」を実現させる手助けができればと思っています。

モットーは「自分以外のために」です。

「地域おこし協力隊」とは

人口減少の著しい地方において、地域の維持・強化を図るため、都市から人材を確保し、さらに定住へとつなげる制度で、期間は3年間です。

編集後記

「地方創生」

国が26年に「まち・ひと・しごと総合戦略」を打ち出した。過疎化や少子高齢化が急速に進む町村にとっては「救いの神」、「時の声」でもあった。

勝浦町も町民の声を聞き「地方創生総合戦略」を策定し、2019年に最終年度を迎える。最重要課題であった人口減少に歯止めがかからず、町の何が創生されるのか、見えてこない。

年景が変わる今こそ、恐竜のポーンベットをどう活かすか、「勝浦創生」のチャンスは待っている。

(国清一治)



表紙写真

第2回さかもと坂道マラソン
400人が激走

